

2018年5月

4月半ばから五月晴れの日も多くなり、朝晩冷え込む天候ながら、紫色の山ツツジ、藤の花が目立つ時期になりました。

5月2日は、「八十八夜」茶摘みが行われる季節になり、木々の新芽が瑞々しく、朝の一時、山の景色に見とれてしまいます。

以前に載せていました学校での園芸サークル、4月28日に第1回目「土について」の講習会をしました。

園芸に興味をお持ちの方、9名の女性の方が参加していただきました。

男性の方も参加していただけるものと思っておりましたが、残念ながら・・・です。

自己紹介のおり「学校に寄せていただくようになって、花ボラの素敵な方々とめぐり合えたこと。」

例えば「ある方は、花ボラに歩いて学校へ来られるときに。煙草の吸殻を拾いながら来られます。吸殻を拾うだけでなく、1本1円のわりで、ある程度の金額になると、赤十字に寄付をされている方もおられます。」

「園芸の勉強だけでなく、いろいろな素敵な体験ができるような園芸サークル仲間になることを願っております。」と前置きし講習会を始めました。

最初に、植物に取り組むときの基本的な考え方は、育てている植物は、人と同じように考えてください。それも私たちは、高槻の北部、山手近くに住んでいます。

名神を挟んで南と北では、少しの事ですが、冬など特に寒さが違うこと。

おそらく夜になると3度くらい違うのでは、と思っています。

植物にとって快適な条件として「土の三相」・固相・液相・気相というものがあります、人間の住環境と一緒に、物がいっぱい詰まって手足も延ばせない、いつもじめじめと湿った家、換気が悪く空気がよどんだ家は快適とは言えません。

植物にとって良い土の条件

- 根の吸収に必要な空気を含む通気性のある土
- 水を適度に含む保水性のある土
- 養分を含んだ保肥力のある土

良い土の条件

1	排水性	水はけが悪いと、花付きが悪く、弱々しい植物になる。
2	保水性	直ぐに乾く用土では、植物が萎えてしまう。
3	通気性	土に空気が不足すると、根は窒息し、根ぐされを起こす。
4	保肥性	肥料を保持する力。
5	有機物	有用微生物を活性化し、1～4の働きを助ける。
6	清潔	雑草の種や病虫害が混ざった土は、生育不良、病気の原因
7	重さ(比重)	軽い土、根の張りが悪く、高い植物は不安定。
8	酸度(pH)	一般に植物が健全に生育するには、pHが5.8～6.5が最適

種類	PH	通気性	保水性	保肥性
赤玉土	6.0～6.5	○	○	◎
鹿沼土	5.5～6.0	○	△	△
天神川砂 桐生砂	5.5～6.5	○	×	×
腐葉土	3.5～4.5	○	△	○
ピートモス	6.5～7.0	○	○	△
軽石	7.0	○	×	×
バーミキュライト	4.5～5.0	△	○	○
水苔		○	○	△

それぞれ特徴を説明したうえで、鉢物を植え替えるときは、基本的には前と同じ土で植替えをしてください。人でも他府県に移り住んだときのことを考えてください。

また、水やりを毎日される方は、赤玉土を少し減らして、バーミキュライトとか川砂とかを少し増やして水はけの良いようにしてください。反対に3日に一度くらいの方は赤玉土を増やしてください。

日本の土壌は、基本酸性です。 これからの時期、紫陽花がとてもきれいです。アジサイは、漢字で紫と書きます。アジサイの花を紫にしたいときは、先ほど言いましたように、酸性のピートモスをやってください。わざわざアジサイ専用の色を変える商

品を買う必要はありません。

また、花壇を作られる時も、肥料をやれば花が咲くものと勘違いをされている方がおられますが、良い土でないと根が張りませんので、肥料は吸収しません。物を植えられる前に必ず、・赤玉土・腐葉土・バミーキュウライト・堆肥などを入れられることをお勧めします。という話を交えながら土の話をしました。

現物の土を回しながら、話を進めましたので皆さんにはよくお解り頂けました。

最後に、腐葉土を作っている、腐葉土箱のところで、秋に街路樹の落ち葉を環境美化も兼ねて、大きいごみぶくろ。約 60 袋を集めて、この箱に入れ。3 週間に一度ぐらい打ち返しをしていること説明して終わりました。

みなさん 5 月の「肥料の講座」を楽しみにしていただいていたようでした。

2018 年 5 月 2 日 西井 忠義